

静御前所縁の地(高田市)





常光寺



静御前の塚



静御前記念碑



石蘭座多久蟲玉神社1



石菫座多久蟲玉神社2



石園座多久蟲玉神社3



専立寺1



専立寺2

高田御坊の 櫓の太鼓

叩きゃぼんと鳴り ぼんと響く

雨情

野口雨情(1882~1945)

詩人。「船頭小唄(枯れすすき)」の詩で有名。「七つの子」「赤い靴」「十五夜お月」「しゃぼん玉」「波浮の港」など、大正中期に、北原白秋・西条八十らと並んで三大童謡・民謡詩人と称された。

そうした大正期に、大和を訪ね高田寺内(現在・南本町)の安川新平氏宅に逗留した雨情が、高田御坊の鼓楼で打つ太鼓の音を耳にして作った詩である。

専立寺開基400年の年、西暦2000年を期に、200年ぶりに改修なった表門築地塀・太鼓楼を背景に、ここにその記念として安川守氏(大中南町)所有の野口雨情自筆の軸を詩碑として建立。



専立寺₄



專立寺5



専立寺6



專立寺7



専立寺8



太神宮の高燈籠

太神宮の高燈籠

この街道は、大和平野の中央を東西に貫いて、大阪、河内、大和、伊勢をつなぐ古道で初瀬街道とも伊勢街道とも呼ばれる。

この高燈籠は、旅の道しるべとして、また、交通安全のため建てられた。東から高田へ入る旅人が夕暮れ時、この明かりを見て安堵したことであろう。

ことに伊勢太神宮の「おかげ参り」の年などは、数万人の群衆が、狂喜乱舞して、この道を通ったのである。

文化財を大切にしましょう  大和高田市教育委員会



天神社₁



天神社2

げん びょう
元 標

道路元標は、大正十一年八月十八日（一九二二年）内務省令として公布され、県境碑とともに道路の基準となるもので、当現標は、下街道（大和郡山市より五條市に至る）と、初瀬街道（横大路）の交差する地点に設置された。

竹之内峠の頂上に県境碑（大正九年三月建奈良縣）があり、西面には、三行にわたって、

「距奈良市橋本町元標八里六町三十六間」、

「距奈良縣北葛城郡役所一里三十四町四十九間」、

「距奈良縣北葛城郡高田町元標一里二十六町一間」とある。

文化財を大切にしましょう

大和高田市教育委員会

道路元標



八幡神社



弁慶のセツ石₂



龍王宮1



龍王宮2